

今日における伝道者育成の課題 ——日本基督教団の場合——

戒能信生

1 日本基督教団とは

日本基督教団は、1941年、日本におけるプロテスタント諸教派が合同して成立した合同教会です。つまり様々なプロテスタント教派が合同した教団で、戦後、いくつかの教派は離脱して元の教派に戻っていますが、教団には主要教派の多くが残り、結果としてこの国においてガリバー型に大きいプロテスタント教派として現在に至っています。と言っても、仏教や神道、あるいは新宗教などの巨大教団とは違って、全国で17教区、約1,700の教会、信徒総数約20万人、現任教師約2,200人という規模でしかありません。

2 日本基督教団の教職制度

日本基督教団の教職制度は、比較的シンプルで、正教師と補教師の二種教職制度を取っています。つまり、神学校を卒業すると、まず補教師検定試験を受け、その合格者が各教区で受け入れられて補教師となります。補教師として各教会などで2年間仕えた者が、正教師検定試験の受験資格をもつことになり、正教師試験を受験して、その合格者が各教区で正教師として承認されることとなっているのです。

さらに、この正教師と補教師は、それぞれの職務によっていくつかの類別に分けられます。教師の類別のうち現任教師としては、教会担任教師、巡回教師、神学教師、教務教師、在外教師があります（表1-1参照）。ごく簡単に説明しますと、教会担任教師は、全国に約1,700ある各個教会に仕える教師で、2004年度の現在、1,892名が働いています。巡回教師は、一つの教会の責任を負う

表 1-1 日本基督教団の教師の構成

	正教師			補教師			正・補教師合計		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
教会担任	1381	248	1629	173	90	263	1554	338	1892
巡回	7	2	9	0	0	0	7	2	9
神学	27	0	27	6	0	6	33	0	33
教務	149	29	178	34	22	56	183	51	234
在外	14	3	17	2	2	4	16	5	21
合計	1578	282	1860	215	114	329	1793	396	2189
休職	1	0	1	0	2	2	1	2	3
無任所	255	46	301	131	96	227	386	142	528
隠退	414	84	498	16	30	46	430	114	544
合計	669	130	799	147	126	273	816	256	1072
総計	2248	412	2660	362	242	604	2610	654	3264

(2004年3月31日現在)

のではなく、その教区で任命されて幅広く諸教会に仕える教師のことで、現在9名が任命されています。神学教師は、各神学校で教職養成の責任を負っている教師で、現在33名が登録されています。教務教師は、各キリスト教主義学校、あるいは様々なキリスト教社会事業の施設などで働いている教師たちを位置づけたもので、現在234名が働いています。在外教師というのは、海外の日本人教会などで働く教師のことで、現在21名が登録されています。以上が現任教師として位置づけられ、その合計は2,189名となっています。

次に、休職教師ですが、これは病気やそのほかの事情で休職している教師のことで、現在3名が登録されています。無任所教師とは、具体的に働く教会や学校などをもたない教師のことで、現在528名が登録されています。その実態はなかなか複雑ですが、教師と結婚して無任所になっている女性教職や、様々な事情で牧会の現場から離れている者たちです。約500名いる無任所教師のうち約100名は、ふさわしい任地があればすぐにでも赴任する用意のある人たちと推測されています。隠退教師は、読んで字のごとく隠退した教師のことで、現在544名が登録されています。しかしこの隠退教師は、隠退した教師であって、信徒ではないのです。したがって、お元氣な隠退教師の中には、各地の専任牧師のいない教会の説教の応援などの奉仕をして喜ばれている場合が非常に多いのです。以上のような教師の総計が、3,264名となります。

さて、次に図1-1ですが、これは以上紹介した教師の類別の主なものの、1950年以降の推移を10年ごとにグラフ化したものです。一番上の折れ線が教

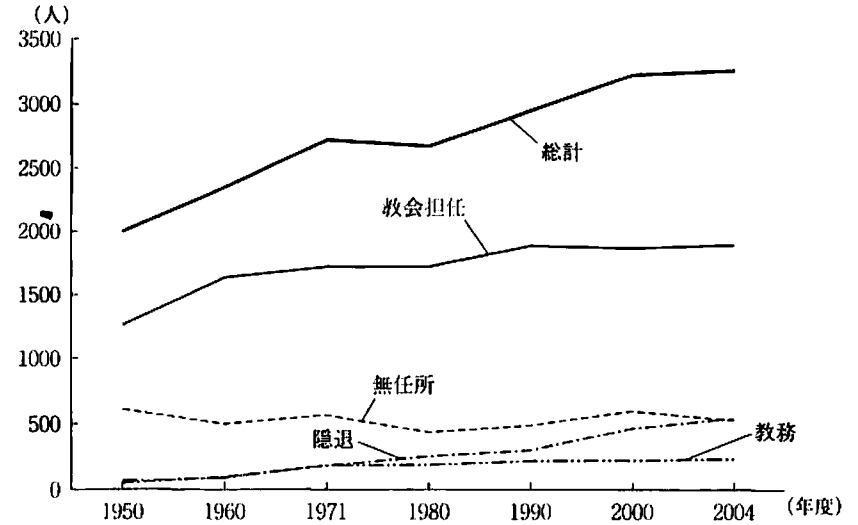


図 1-1 教師の推移

師総計の推移を示しています。二番目の折れ線が、教会担任教師の推移、三番目の折れ線が、無任所教師の推移、その下は隠退教師の推移、そして一番下の折れ線が教務教師の推移を表わしています。これを見る限り、日本基督教団において、各個教会などの働き場所に、現在のところ必要な教師は少なくとも人数的には充当されていると言えるでしょう。

図1-2は、教師のうちの男性と女性の割合の推移を、パーセンテージにしてグラフ化したものです。これを見ると、日本基督教団の場合、戦後50年間、女性教師の割合は20%前後でほとんど変化がありません。教団の信徒の男女比は、男性1に女性2という割合なので、教師における女性の比率がもう少し高くなってもいいはずですが、常に約2割の指数が続いているというこのデータは、一つの課題を示していると言えます。しかし、教会担任教師における女性の割合の推移を見ると、戦後間もない時期は12.3%にすぎなかったこの数値が、少しずつ増加して現在18.9%になっていることは注目すべき点だと考えられるでしょう。すなわち、各個教会において女性の担任教師が少しずつではあるが、確実に増加しているということを、それは意味しているからです。